

問一

伝統的秩序を可視化していた物が商品となることで、誰もが社会的制約から解放され、自らの自然な欲求を充足させるためにそれらを自由に消費できるようになったということ。(八十文字)

問二

商品の機能を求める自然な欲求から解放され、相互差異化を競う人々の志向に即した記号のシステムとして組織化された商品群によって、需要が不断に喚起されるような市場。(七十九文字)

問三

人間に内在する欲求を満たすという目標を効率的に達成するために、生産過程の規格化を進めて、自動車を大量かつ安価に提供するのがフォードの手法の核心だったということ。(八十文字)

問四

物の機能を求めるのではなく商品群が提示する記号や物語を消費するようになると、合理性や進歩を追求する近代の一元的世界観が変容し、人々は多元的世界観のなかで伝統や自己ではなく他者に準拠して自我を形成するようになるが、物語の多元化が進み記号の価値が細分化すると、他者を媒介とした自己形成も徐々に難しくなっていくということ。(百五十八文字)

問五

- (a) 接触
- (b) 防衛
- (c) 厳密
- (d) 貢献
- (e) 戯画

問二

- ① 何年も経って
② 入水するはずの前世からの因縁であるのだろう
③ ああ、たった今引き留めてくださいよ
④ 火に身を投じたり水に入ったりして死ぬ苦しみは並大抵ではない

問二

長年の親しい交際があり、固い信仰心から入水を望み、立派に極楽往生を遂げたはずの蓮花城に恨まれる覚えが、登蓮にはないから。(六〇字)

問三

「ある人」の言う通り、自分の信仰心の不足を自覚しないまま入水した蓮花城が、極楽往生できなかつたから。(五〇字)

問四

- a べけれ b べき c へき d べし

問五
ホ

問三

- ① あざな
- ② わかくして
- ③ すべて

問二

(ア) いまかえさるべし(と)。

(イ) すでにもちうるどころなし。

(すでにもちいるどころなし。)

問三

私はある筆を持っていたが、その筆は長年にわたってあなたのところに預けてある。

問四

江淹が、わずかな錦を手放す夢や、借りていた筆を返す夢を見ると、すぐれた詩文が作れなくなつたこと。(四十八字)